

# 小児科医がこれから歩む道

会長 杉浦 壽康

平成13年5月27日に行われた総会においてご指名を頂き、4期8年の長きにわたり小児科医会運営に尽力された阪正和先生の後を継ぎ、県会長として会務に携わらせていただくことになりました。誠に光栄に存すると共に重責に身の引き締まる思いで一杯です。もとより浅学非才の身ではありますが、幸い、副会長始め理事の先生は豊富な経験と高い見識、実行力のあるかたばかりで大変心強い限りであります。円滑な会務運営にはこうした頼もしい役員の方々そして会員の皆さんの深いご理解と適切なお助言、積極的なご協力を頂かねばなりません。小児科医会の発展・充実の為どうか温かいご支援を賜りますことを衷心よりお願い申し上げます。

バブル崩壊後未だに低迷と混迷が続き先行き不明な産業・経済の状況にあつて、確実に増えていく高齢者人口（高齢者社会の進展）、止まるところを知らない出生率の低下（少子社会の到来）は労働人口の減少に繋がり、わが国の生産性は低下の一途を辿り、やがては日本国そのものが存在の危機に曝されることは必至ではないでしょうか。こうした社会情勢が医療にも暗い影を落とし始めていることを感じておられることでしょう。

列島改造論に始まった高度経済成長がわが国にもたらしたものの何だったでしょうか。たしかに、食品・衣服など日常生活用品は余るほど豊かになりました。どの家庭にも複数台の自家用車・TVがあり、洗濯機・掃除機・冷蔵庫など電化製品があります。一見生活が豊かになったと錯覚させられているではないでしょうか。生活が便利になりこれまで家事に追われていた女性（主婦）は時間にゆとりができ、家庭にだけ留まっていたは社会に後れると考え（勘違いし）家の外に生き甲斐を求めて正社員あるいはパートタイマーとして働きに出るようになりました。

一方、人間の価値の判断基準として「高学歴」が重要な要素と考えられ、偏差値の高い子が良い子とされ、その為親たちは子どもの能力や才能などはお構いなしに、子どもの実力はともかく、少しでも良い（有名）大学へ子弟を入れようと、塾通いを子どもに強いるようになりました。子どもは時間のゆとりも心のゆとりも持つことができず、友達と遊ぶ機会も無く社会性が育たないまま大人の中に入らざるを得ない状況になっています。

高度経済成長（バブル）は自然破壊と日本人の心を破壊してきました。21世紀は失われた自然と忘れられた日本人の再生の世紀としなくてはなりません。この時にあつて小児科医は何ができるか、何をしなければならぬか、真剣に考え早急に取り組まなければなりません。

小泉首相は聖域無き改革を唱え、世界のどの国（アメリカでさえ）も真似が出来ない世界に誇る医療保険制度を始め医療制度の抜本改革を目指し、着々と準備を進めている事は周知の通りです。既に新聞・TVで報道されており改革案の大凡の内容は承知しておられることと思います。委員の中に医療関係者が一人もいない総合規制改革会議でこの改革案が取り纏められており、この改革案が実施されたならば、医療現場は大混乱に陥り、弱者である患者さんが最も不利益を被るであろうことは容易に想像でき、到底受け入れることのできないものです。

このように社会情勢が変わっても、子どもの成長は変わりません。子どもの幸せが第一であることは言うまでもなく小児医は常に子どもと共に歩まなければなりません。今、子ども関係する悲しい痛ましい不幸な事件がマスコミを賑わしています。事件に関係する多くの子ども達は、彼らの生育の過程において何らかの問題を抱えている場合が多く、程度の差はあれ心に傷を持っている子どもが多いようです。乳幼児期の子どもへの親の係わりかたに基本的な問題が潜んでいるようです。要するに、「育児」の問題であると思います。

これまで小児科医の仕事の大部分は子どもの病気の治療でした。医学・医療の進歩で疾病構造が変わり、感染症を始め重篤な身体疾患が減り、一方で心に何らかの問題を持っている子どもが増加しています。子どもの心身の発育・健康について専門的知識と経験を有し支援の方法を知っているのは小児科医であり、今日のような社会情勢にあって育児支援と心のケア、予防接種、乳幼児保健、学校保健が小児科医にとって、ますます重要な任務となるでしょう。（社）日本小児科医会は3年前から「子どもの心相談医」研修会を始めました。子どもの心相談は一人の子どもに要する時間も長く、その報酬は現行の医療保険制度では十分と言えず、医師のボランティアに依るところが大きいのが現実であります。乳幼児保健や学校保健についても、現行の内容で果たして良いのだろうか大変疑問に思います。それに携わる内科校医（特にに園医・小学校医）多くが小児科専門でないのも問題であります。

昨今、小児救急医療が大きな社会問題になっている。この解決の為には、診療報酬面での小児科の優遇と小児科医、特に病院勤務小児科医師の勤務環境を良くする為小児科医の数を増やすことが必須であります。小児科医を増やす為には医師養成において小児科の魅力と重要性を十分に教育し理解を得る努力をすることが重要であります。

政府が実行しようとしている医療改革が小児科医療に吉と出るか凶と出るか未だ不明です。厚生労働省は「健やか親子21」を重要施策として掲げており、医療改革が如何出ようとも、21世紀を託す日本の子どものため、小児科医はこれまで歩いて来た身体疾患医療を中心とする道だけでなく、育児支援を始め子どもの心身の健全な発育を支援する道を歩まなければならないと思います。

愛知県小児科医会としても、子どもの幸せと健全な発育を支援するため、中・長期的には小児科医が働きやすい環境整備を、短期的には小児救急医療、予防接種の広域化などの問題解決の為努力いたす所存であります。会員のみなさまのご助言ご協力を切にお願い申し上げます。